

## 第 I 部

教職を目指す学生へ

# 教員採用試験合格者の経験を聞く

「私らしく」

S.A. (文学部日本文学科 4年)

## 1. はじめに

私は、令和6年度横浜市公立学校教員採用候補者選考試験・中高国語で合格しました。私が合格することができたのは、先生をはじめとする教職課程センターの方々、一緒に頑張ってきた仲間のおかげです。これから教員を志すみなさんに少しでも私の経験が役に立つと幸いです。

## 2. 横浜市を選んだ理由

私自身、生まれも育ちも横浜市のため、なんとなく自分の地元で教員になるのだろうと考えていました。しかし、採用試験対策をしていく中で、それぞれの自治体によって多様な特色があるということを知りました。様々な選択肢がある中で、やはり横浜市がよいと強く思ったのは自分自身のもっている教育観に合っていて、私が教員になってやりたいことをできると感じたからです。これから、どの自治体にするのか、校種はどうするのか、悩むこともあると思いますが、今一度自分自身を見つめ直して、こだわりをもって選択してほしいと思います。

## 3. 試験対策

### (1) 論作文

論作文は3年生の夏頃から対策し始めました。論作文はとにかく定期的にかくことが大切です。最初の頃は何をかくのか、何からかくのか全く分からない状態でしたが、書いていくうちにだんだんと自分の書きやすい型ができてきました。毎週少しずつ、先生に見てもらいながら様々なテーマで書いていけば着実に力がつくと思います。

### (2) 個人面接

個人面接は、一次試験の2か月ほど前から対策し始めました。自分自身の思い描く教育や、教員になりたい理由を見つめ直し、自身の経験と結び付けながら、自分にしか言えないことを見つけていくことが大切だと思います。自分自身を見つめ直すというのは、ただ一人で考えているというわけではありません。私は、他の人の考え方に触れてこそ、自分自身に気づくと考えます。仲間と面接練習をしたり、何気ない会話をしたりしている中で視野が広がり、自分の考え方を強固にできると感じました。

### (3) 場面指導

とにかく、たくさんの場면을想定することが大切で

す。教育実習やボランティアの中で、様々な場面を目にする機会があると思いますが、生徒の目線に立って、自分だったらどうしてほしいかというのを常に考えることをおすすめします。

### (4) 模擬授業

様々なテーマで練習することをおすすめします。やっていくうちにどんなテーマでもぶれない自分の軸や授業方法ができてきます。先生や仲間に見てもらいながらコツコツやっていけば、落ち着いてできるようになると思います。

## 4. ボランティアの経験

私自身、教育実習が秋学期ということもあり、ほとんど学校での経験がないまま教員採用試験に臨むことに大きな不安をもっていました。そこで、少しでも学校の状況を見ることができるようになり、ボランティアに参加することを決めました。実際、学校に行くと生徒を目の前にしてみると、大学で学んだこととはまた違った気づきがたくさんありました。やはり、ただ座学で勉強していることは、ただの理屈にすぎず、実際に生徒と関わってみることがとても大切だと改めて実感しました。実習では3週間という限られた時間ですが、ボランティア先の生徒とは長期間関わることができるので、また実習とは違った貴重な経験ができると思います。

## 5. 教員採用試験を受ける上で

これから、採用試験を受験するにあたって、様々な壁にぶつかる瞬間があると思います。思っていたように勉強が進まなかったり、なかなか力が伸びなかったり、私自身もこの期間で何度も挫折しかけていました。しかしそういった気持ちになるということは、それだけ必死に頑張っている証だと思います。そして、そういった経験は必ず自分自身を強くしてくれます。辛いとき、苦しい時こそ明るく前向きに、諦めないことがとても大切だと思います。

## 6. これを読んでくれているみなさんへ

私が教員採用試験を終えて思うことは、あくまで教員採用試験は過程であるということです。教職課程センターでは、教員採用試験に向けた対策を主に行っていると思いますが、教員採用試験の合格という目的だけでなく、これから教壇に立つ上で、これから社会人になる上で、とても大切なことをたくさん教えてもらうことができます。また、同じ志をもった仲間と共に頑張るという経験は、なかなかできないことだと思います。こういったことを、教員採用試験を通じて経験

できたことは私の大学時代の誇りです。

今読んでくれる皆さんの中には、教員になるか迷っている人、採用試験への不安を抱えている人、様々な人がいると思います。たくさんの選択肢がある中で、教員を目指すにも目指さないにも、自分の意志をもって選択してほしいと思います。大学時代に頑張っていたこと、楽しんでいたこと、苦労したこと、その一つ一つが人間性を豊かにしていきます。試験対策や就職活動に熱心になることはとても素敵なことですが、それだけにとらわれず、様々なことにチャレンジしてください。みなさんが自分の納得のいく道に進めるよう、応援しています。

---

## 千の葉の先生になる

K.O. (文学部英文学科 4年)

---

### 1. はじめに

私は令和7年度千葉県教員採用試験に中高共通英語(採用は中学校)で合格しました。ここでは私の体験および千葉県の対策をメインに書かせていただきます。少しでも皆さんのお力になれば幸いです。

### 2. 筆記試験対策

千葉県は1次試験のうち教職教養と専門教養は大学3年次に受験することができます。(ちば夢チャレンジといいます)基準点を満たせば大学4年次の試験では教職教養と専門科目が免除になります。自分はこの制度を用いてかなりの時間を集団面接と2次試験の対策にあてることができました。このちば夢チャレンジの制度を活用することを強くおすすめします。東京都なども同様の仕組みがあるのでぜひ調べてみてください。

#### ①教職教養

千葉県は教育原理と教育法規、千葉市・千葉県の教育施策から主に出题されますので、私は教育心理や教育史の勉強は一切しませんでした。教育原理と教育法規については赤シートで覚えるタイプの参考書一冊と過去問題を中心に取り組みました。教育施策についてはホームページから資料を印刷してマーカーを引いたりしながら暗記しました。

#### ②専門教養

千葉県の英語は主に学習指導要領16点分、文法から24点分、長文読解から60点分出题されます。レベルはMARCHぐらいだと思います。長文は全部解ききれない量ではないと思います。毎回大問1個分は捨てていました。それでも本番は7割後半取れたので全く問題なかったです。大事なことは学習指導要領や文法などで失点しないこと、長文などは満点を狙わずに正確に読ん

でいくことだと思います。戦略的に合格点(7割あれば安心?)を勝ち取りましょう。

### 3. ちば!教職たまごプロジェクト

千葉県での受験を考えている人は「ちば!教職たまごプロジェクト(以下たまプロ)」の参加を強くおすすめします。学校現場を教育実習とは違った視点で見ることができるからです。小学校や中学校での受験の人はもちろん高校教員を目指す人も、中学校から進学してくる生徒がどのような生徒なのか知れるので、たまプロに参加した方がよいと思います。生徒たちと一緒に給食を食べたり、授業で学習補助に入ったり、部活動の練習補助をしたりと生徒たちと関わるができるのでとても楽しいです。集団面接や個人面接で、たまプロのことについて話せると説得力も増します。自分は、たまプロ実習先の教頭先生に個人面接の練習や模擬授業などを見ていただきました。たまプロ実習先の学校の先生に合格報告をさせていただいた時にとっても喜んでくださったことをとても覚えています。

他の自治体の受験を考えている人も何かボランティアや教師塾などの参加をおすすめします。

### 4. 集団面接・討論対策

集団討論は協調性が試されていると思います。私は千葉県を受験する仲間や他の自治体を受験する仲間に協力してもらい週1回練習しました。そのためにも教職課程センターでの仲間づくりが大切だと思います。また、しっかりと教育観を持つてのぞむとよいと思います。面接は「話す論作文」です。そのために受験科目になくとも教育観を構築するために論作文を書いて自分の考えや知識を整理しておくことよいと思います。

### 5. 個人面接対策

教職課程センターでの相談枠で橋本先生、たまプロ実習先で教頭先生に指導していただいたのはもちろんのこと同じように教採を受験する仲間たちと面接官役などをし合ったりしながら互いに高めていきました。練習は嘘をつかない。本当にこれに尽きるかなと思います。面接官はプロです。受験者が頑張っ対策してきたかどうかは一瞬でわかります。自分が教員になりたい、こういう子供たちを育てたい、こういう授業をしたいという教育観を大切にするのはもちろんのこと、受験する自治体への熱い思いを謙虚にぶつけましょう。(私も千葉県と教育への愛を謙虚にぶつけてきたつもりです笑)

### 6. 模擬授業対策

千葉県は6分(導入、展開、まとめどれでも可)で模擬授業を行います。橋本先生やたまプロ実習先の教頭先生に指導していただきよりよいものを目指しました。千葉県は特に明るく元気にやっていくことが大切だと思います。生徒役の実験者との対話を大切にしな

から模擬授業をよりよいものにしてください。

## 7. 実技検査対策（英語）

※概要（All in English）

- ALT との口頭面接 2、3 問（Why do you want to be an English teacher? など）
- キーフレーズ 2、3 個（Will you ~? / Would you like ~など）を用いた

ALT との team teaching（準備 4 分、実施 6 分）

team teaching の方は授業の中身というよりは ALT と英語で連携して準備をしたり授業をできているかというコミュニケーションの部分が見られています。All in English なのでオンライン英会話などでスピーキング練習をするとよいと思います。自分は同じゼミの英検 1 級を所持している友人に ALT 役をお願いして zoom で練習していました。

## 8. さいごに

教員採用試験は全部 1 人でやろうとすると絶対にうまくいきません。教職課程センターや同じく教員を目指す仲間などと切磋琢磨しながら合格を勝ち取ってください。自分は生まれ育った千葉県で生徒たちのために日々精進していきます。お互い頑張りましょう！！

---

## 自分の想いを大切に

S.I.（文学部英文学科 4 年）

---

### 1. はじめに

私は令和 7 年度東京都教員採用候補者選考試験を受験し、中高共通の英語科で合格をしました。私は高校生の頃から漠然と教師を目指し、大学生では教師になることを 1 番の目標としていました。しかし、本当に教師になりたいのか自問自答をすることや、試験対策に行き詰まり、悔しい思いをすることもありました。

私からは教職を目指すみなさんに、試験対策について、そして、教職への想いが揺らいだ時どうすべきかについてお伝えできればと思います。

### 2. 試験対策

試験は出題範囲が非常に広く、1 人で対策をするには心許ない思いをされると思います。そのような時こそ、同じ目標を持つ人々と協力して乗り越えてください。

#### (1) 筆記試験

東京都の筆記試験は専門教養と教職教養があります。どちらも出題の範囲が広く、対策に苦戦されることと思います。英語科の専門教養対策は長文演習のみではなく、あらゆる英文法に対応できるよう、文法書の発展問題を用いて対策を試みてください。また、教職教養は東京都独自の施策などについて問われることがあります。1 人で情報を集め切ることは困難です

ので、周りとは情報共有をし勉強を進めてみてください。

#### (2) 論作文試験

論作文においては、「このような内容を問われたらこう答える」と自分の中で十八番となるアイデアを持っておくことが大切です。

教職対策講座では主要な出題される課題について一通り扱ってくれるため、講座で演習をした課題については必ず自分なりの回答を持っておくことをお勧めします。

しかし、私が経験したように、考えたこともない課題に直面し、頭を抱えることもあると思います。そのような時は、周りの人にどのようなアイデアを持っているのか尋ねてみてください。教職対策講座にいる学生は皆、教師になりたい理由や理想とするものが異なるため、1 つの課題に対して異なる考えを持っています。また、自分が何を書けば良いか分からない課題に対して、明確な考えを持っている学生が必ずいます。

三人寄れば文殊の知恵です。是非、周りとは協力し、自分の考え方の幅を広げていってください。

#### (3) 面接

筆記・論作文と、周りの人々との協力の大切さをお伝えしてきましたが、面接こそ周囲との協力が重要です。

面接対策を多くの人とやると、周りのアイデアを自分のものにするだけでなく、多種多様な質問を経験することができます。

私が面接試験当日に聞かれた質問のうち、予想外だったものは 1 つしかありませんでした。それほど、教職対策講座の仲間たちは多種多様な質問をしてくれます。

#### (4) 実技

東京都の英語科の試験では実技試験としてスピーキングがあります。あまり情報も出ていないですし、対策も何をしたらいいのか悩まれるのではないのでしょうか。

要項にて発表されるスピーキングテストの内容（英語教育の方法論や授業形態）について、しっかり理解しておく、そして、それらに対する自分の意見やどのように授業で活用するかを言えるようにしておくことが大切です。対話をするネイティブスピーカーはかなり早口ですので、日頃からオーセンティックな教材でリスニング対策をしておくことが良いかと思います。

### 3. 教師になりたいのか分からなくなったら

教師になりたいのか分からなくなったら、自分がおじいさん・おばあさんになった時、何を成し遂げたいのか考えてみるというのはどうでしょうか。

私は塾でのアルバイトや教育実習を経て、自分の教師としての適性に疑念を抱き、教師への想いが揺らぐ

期間がありました。実習期間中に行った校長先生との面接試験練習では、志望動機が弱いことや知識が浅いことを指摘され、自分の今までの考え方や取り組む姿勢が甘かったのかと悩み、とても悔しく泣いた記憶があります。

じっくりと「自分がおばあさんになった時に何を成し遂げたいか」ということを考えてみると、「日本から世界に羽ばたいて、社会をリードする人材を沢山育てたおばあさんになりたい」という結論に至りました。私がこの目標を達成するためにはやはり教師になるしかない、失いかけていた熱意を取り戻すこととなりました。

自分が何かを成し遂げたいという心に秘めた想いを他者が測り知ることはできません。選択しようとしている道が自分の理想を実現できるのかどうかを見極め、自身の信念を貫いて全力で駆け抜けていってください。

#### 4. おわりに

教員採用試験は皆さんにとって大きなプレッシャーになることと思います。1人で戦わず、困った時、悩みを抱えた時は、同じ目標を持つ仲間たちに声をかけ、助け合って乗り越えていってください。そして、自身の想いと理想を突き詰めて、自分だけの志望動機と論を展開し、合格を勝ち取ってください。心から応援しています。

---

### みんなで乗り越える教員採用試験

M.A. (文学部日本文学科 4年)

---

#### 1. はじめに

私は令和7年度神奈川県教員採用候補者選考試験にて、高等学校国語科で合格することができました。私の経験が少しでもみなさんのこれからの役に立つことができたら幸いです。それでは、1次試験対策、2次試験対策と順を追って詳しく話していこうと思います。

#### 2. 専門教養、教職・一般教養の対策

私は大学3年生の秋頃から勉強を始め、同時に教職課程センターが開講している講座を第1タームから受講しました。まず、1次試験を突破する上で大切なことは過去問を解くことです。私の場合は過去問を8年分程解くことで、問題の形式に慣れたり自分の弱点や強みを発見したりすることができました。そして、それらを元に必要である知識を補うことができる教材を新たに購入し、繰り返し解きました。

同様に教職・一般教養でも過去問を解き、自分の苦手を知った上で参考書等を活用して学習を行いました。特に教職の範囲については講座でも学習することができるので、予習、復習に活用することで定着を早

めることができました。また、私は3年生ということもあり、まだ授業があったため勉強を開始したのは秋頃でしたが毎日続けることは正直難しかったです。しかし、大切なのは日常的に反復することだと思います。1問でも2問でも、教材を開いて目を通すだけでも構いません。続けることが大切です。

そして、私が試験に向けて本腰を入れて勉強することが出来始めたのは2月頃でした。この頃になると、次第に同じ志を持つ仲間と共に勉強することも増えました。時には図書館で、またある時にはラーニングスペースで行いました。勉強は1人でも出来ますが、反対に簡単にやめることも出来ます。ふと横を見た時に一生懸命机に向かってる仲間を見ると自然と「私も」という気持ちにさせてくれました。

#### 3. 論作文の対策

論作文については私の場合、教職課程センターを利用すること以外、参考書を購入する等何もしませんでした。とはいえ、論作文を書き始めた頃は沢山の赤ペンが入り、自分でも上達しているのか分からない時期が2、3ヶ月ほど続きました。しかし、前述したようにこれも続けることが大切です。継続をしていくと段々と自分の中で論作文の書き方、言い回しが定まり始め、文章に迷いが無くなり、本当に言いたい部分だけを熟考するようになりました。また、面談では先生から「上手く書けるようになってきたね。初めの頃はどうかと思ってたよ」と言われ、心から安心したことを今でも鮮明に覚えています。初めの頃は不安かと思いますが、書き続けることで慣れ、完成した論文を沢山ストックすることが突破への道であると思います。

#### 4. 面接の対策

面接については、1次試験が終わってから取り組み始めました。同じ志を共にする仲間たちで週3回ほど図書館の会議室に集まり、模擬面接を繰り返し行いました。最低2人が面接官役を行い、1人はホワイトボードに書記、もう1人が受験生役を行いました。模擬面接では1回ごとに全員でフィードバックを行い、沢山の意見が交わされ濃い学びを日々得ることができました。もちろん先生との面談も行いましたが、回数で言えば圧倒的に同志で行った面接の回数が多いです。2次試験は1次試験よりもより周囲と協力して力を蓄えることが鍵になっていくと思います。

また個人的に苦戦した質問については「どのような教員になりたいか」でした。この質問は実際に試験の際にも聞かれましたが、言語化することが難しいため、早くから考えておくと思いいます。

#### 5. 模擬授業

神奈川県での模擬授業は自由度が高く、自分で教材

が選定することができる分、教材選びに時間がかかります。更に私の場合、途中で教材を変更したため試験の3日前に模擬授業の指導案が完成しました。また、神奈川県では色チョークや持ち運びができるサイズの掲示物等持ち込みが可能なため、教材づくりにも時間を費やした結果、練習が疎かなまま本番を迎えることになりました。ここまでで皆さんに伝えておきたいことは1次試験を終えたからといって気を抜かないことです。特に最近の教員採用試験の傾向は人物重視であるため、二次試験が山場といっても過言ではありません。満を持して試験に臨めるように早め早めに行動に移すのが吉です。

## 6. おわりに

はっきりと言えることは、私一人の力では教員採用試験に立ち向かえなかったことです。日々の講座にはじまり、同志たちと共に励んだからこそ、今の自分があると確信しています。再三触れましたが、同じ志を持つ仲間と共に進むことこそが合格への第一歩です。周りにある環境を最大限活用し、夢に向かって頑張ってください。そしてこの場をお借りして、これまで関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

---

## 教員を志す皆様へ

A.S. (文学部日本文学科4年)

---

### 1. はじめに

私は令和6年度実施神奈川県教員採用候補者選考試験を受験し、中学校国語科として合格をいただきました。この文章を読んでくださる方々にとって、少しでもお役に立てれば幸いです。

### 2. 学校現場での学びのすすめ

私の教育実習は、9月下旬開始と、教員採用試験合格発表後の実施でした。採用試験後に実習という流れになると、多くの人が実習に行く5月は一次試験の対策に専念することができます。一方で、現場での実習経験なしに試験に臨むということに、私は多少なりとも不安を抱いていました。そこで、採用試験前に学校現場で学ぶべく、よこはま教育実践ボランティアとして7月まで小学校で週に1度、担任補助を行いました。中学校教員志望であったものの、学習塾でのアルバイトを通じて日頃から中学生と接する機会が多いことに加え、異校種間接続が重要視されている今日において、小学校での学びは将来中学校教員になった際にも活かせると考え、ボランティア先としてはあえて小学校を選びました。

あくまでも担任補助であるため、教育実習のような教壇実習はありませんが、積極的な挙手と発言で生き

活きと授業に参加する児童を見て、自身が作りたい授業の軸を持つことができました。また、何よりも、自分の中の「教員になりたい」という気持ちを改めて確認することができ、勉強のモチベーションとなりました。勉強時間を使ってボランティア活動に参加することに不安を感じている人もいると思います。しかし、実際に学校現場に赴き、児童生徒と関わるという経験は、机上では学ぶことのないものを得ることができ、必ず糧となります。以上から、教育実習の実施時期に関わらず、少しでも悩んでいるすべての方に学校でのボランティアへの参加をおすすめします。

### 3. 論作文対策について

私は、「ある程度教育に関する知識が溜まってから論作文を書けばいいや」との思いから、対策講座にて作成することだけに慢心し、本格的に論作文対策に手をつけたのは、割と遅い時期になってからでした。結果として、6月後半まで、時間内に書き終えることができるかどうかという不安を抱え続けることになりました。論作文は、教育課題に対して自身の策を訴えるという点で「書く面接」とも呼ばれますが、二次対策との関連性だけではなく、もちろん一次対策とも密接に関わっています。確かに、教育法規等の知識を持っていなければ書きにくいような問いも存在します。しかし、論作文は当日までにどれだけ書き溜めて自分のものにできるかが重要です。初めは、調べつつ、知識を蓄えることと並行しながら完成させるというやり方でも良いので、早いうちに取り組むべきです。また、書き溜めた策や言い回しを新たな論作文に有効活用するためにも、エクセルに、出題年度、問い、自身が書いた策をまとめて一覧表にしておくとも良いと思います。私は試験当日、これを印刷したものを持ち込み、論作文前の休憩時間に確認することで心の準備を行いました。

### 4. 二次試験対策について

面接と模擬授業に関しては、「ありのままの自分で誠実に向き合うこと」、「校種や教科に関わらず様々な人に見てもらおうこと」が何よりも大切であると思います。そして後は練習あるのみです。

#### (1) 面接

一次試験に向けた筆記対策や面接練習を通して、日々教育に関して思考を巡らせる中で、様々な事柄に対して自身はどう考えるか、何を伝えたいのかといったことは自然と定まってくるものです。しかし、例え同じ内容であってもほんの少しの言い回しや、話し方によって、伝わり方は大きく変化します。だからこそ、何度も推敲して実践する必要があります。そして、毎度の問いに誠実に向き合うことで、想定問答を暗記する必要が無く、話し方が凝り固まって、機械的になっ

てしまうことを防ぐことができます。

## (2) 模擬授業

形式は自治体によって様々ですが、共通することは、制限時間がとても短いということです。初めは長そうに思えても、実際に授業を始めたらあっという間です。短いながらも、展開に不自然さはないか、発問や指示は的確であるのか、常に生徒の視点に立って、自身の授業を客観視する必要があります。また、模擬授業を構想する際には、「教材を用いて自分が伝えたいこと」を軸として、授業を受ける側であったらどのような展開であれば興味を惹かれるか、ということに基づいて作りあげると良いと思います。

## 5. おわりに

私が合格することができたのも、教職課程センターの皆様や、共に教員を志望している仲間達等々、周りの方々の力添えによる部分がとても大きいと実感しています。二次試験対策だけでなく一次試験対策の段階から、誰かと一緒に勉強をする時間を設けるということはとても効果的です。時には、周りの人と比べて焦ることもあるかもしれませんが、ですが、自分を追い詰めすぎることなく、「良い刺激」に変えることができれば、いつか大きな成長に繋がります。伸びしろだらけの皆様のこれからを、心から応援しています。

---

## 教員採用試験を終えて

Y.M. (文学部英文学科 4年)

---

### 1. はじめに

私は令和6年度の神奈川県公立学校教員採用候補者選考を高校英語で受験し、合格しました。橋本先生や教職課程センターの方々や外部の支援して下さった方のお力添えがあってこそでした。みなさんの助けとなるよう私の合格までの道のりを記します。

### 2. 決断

私は始め、教員になるか一般企業に勤めるか悩んでおり、決断にとっても時間がかかりました。というのも教員になりたい想いはありましたが、一度企業に勤め、社会を知ってから教壇に立つべきなのかという疑問があり、教職に向けての対策と就職活動を平行して行っていました。橋本先生にも相談し、教員の採用枠がこれから狭まる可能性があることを知ったことや大学に入った理由は教員免許状を取得し、学校の先生になるためであると原点に戻り、教員採用試験を受けるという道に絞りました。また、教育実習での経験を振り返り、授業準備や教材研究で大変な部分を感じましたが、何より生徒と関わることがとても楽しく、日々、生徒と共に学ぶことができる教員として生きていきたいなと思ったことが強く背中を押したのだと思います。

## 3. 対策

### (1) 一次試験

神奈川県の教員採用試験の1次試験では教科専門と一般教養・教職専門の試験と論文試験があります。論文に関しては二次試験での選考資料扱いになるため、一次試験には影響されません。私は、決断が遅かったため本腰を入れたのも1月の半ば頃でした。まずは神奈川県の教員採用試験に関しての要項が公開された際に確認しました。私は英語力を測るためにTOEICを定期的に受けていたために専門教科の試験は免除されました。免除以外に加点もありますので、要項が公開された際には自分の持つ資格が有効であるかを確認してみてください。勉強面に関しては、ひとまず過去問を1,2年分解きました。それから教職教養の要点がまとめられた参考書を一冊購入し、出題される分野を熟読し、知識を蓄えつつ、過去問も並行で解き進めていました。また、教職対策講座を受け、よく出題される問題を勉強しました。さらには教職で知り合った友人と問題を一緒に確認したり、問題を出し合いました。一般教養に関しては塾講師の経験により、そこまで苦労はしませんでした。社会や理科は教科書を振り返ったり、過去に使っていた参考書で勉強したりしました。論文については橋本先生頼りでした。教職対策の講座を受け、背景知識を得ながら、自分の経験を整理し、教わった書き方のおりに書きました。私の場合、論文が苦手な部分であったため個人面談では主に論文の指導を受けていました。指導後は良くなるまで書き直していました。また、参考書を買って、例を読んで自分の引き出しを増やしていました。しかし、そのまま書き写したり、覚えたりすることはお勧めしません。自分らしさが消えてしまうからです。

### (2) 二次試験

私の受験した自治体では、面接と模擬授業が二次試験にありました。面接に関しては、まず自分の受験する自治体の特色をつかんだり、自分自身のことについてや自分の想いを整理しました。紙に文ではなく箇条書きで受け答えを整理しました。そして教職の友人と面接練習を何度もしました。練習後には、疑問だった点を確認し合い、その場にいるだけでもとても学びになりました。また、お世話になった先生に連絡をとり、校長先生と面接練習をさせていただき、指導を受けました。自分の教師像や教育哲学を持つ大切さや不祥事を起こさないよう人間の弱さを理解し、先回りして危うい状況を避けることを学んだことを強く覚えてます。また、面接では覚えたことを言うのではなく、自分を知ってもらおう場であると考え、自分らしさを出せるまで練習しました。模擬授業では教壇でいかに先生の姿を見せることができるかだと思います。教育実習

で教壇に立った経験がとても活きたと思います。また、課題から要求されることを捉え、指導案を考えることが大切です。

#### 4. 本番

私は、二次試験の本番で指導案を忘れるという失態を犯しました。とても焦りました。頑張ってきたことが、無駄になると考えたらずも正気ではられませんでした。しかし、早く集合場所に行っていたことで、忘れたことに早く気づき、データをスマホに入れていたため、コンビニエンスストアで印刷し、間に合わせることができました。本番、入念に準備しても何が起るかわかりません。焦っても、諦めないでください。大事なものは失敗した後、取り返そうとする姿勢です。私は、これをピンチと思わず、チャンスと考え、振り切って試験に挑むことができました。

#### 5. エール

私は神奈川県だけでなく、愛知県の教員採用試験も受けました。複数の自治体を受けることで場数を踏むことができ、自信になります。ぜひ、受けてみてください。また、教員になるか悩んでいる方はぜひ、自分の origin を思い返してください。Where there is a will, there is a way. (意志のあるところに道は開ける。)

---

### 「出遅れても...」

A.W. (人間環境学部人間環境学科4年)

---

#### 1. はじめに

私は令和7年度千葉県・千葉市教員採用候補者選考(6年度実施)の中高共通・社会科を一般選考で受験し、合格をいただくことができました。この合格体験記が、これから採用選考を受ける皆さんの不安を少しでも和らげ、これから何をすべきかの手がかりとなりましたら幸いです。

#### 2. 教採対策のはじまり

私は、教員採用選考の対策をこれといって何かするわけでもなく、気づけば試験まで半年を切った状態にいました。今思えば、あまりにも出遅れた状態であったと思います。

友人から「とにかく一度教職課程センターへ行った方が良い」と聞き、「とりあえず行ってみるか...」と初めて教職課程センターを訪れた日のことを、今でもはっきりと覚えています。ぼんやりと過ごしてきた私を待っていたのは、指導員の先生の厳しくも愛のあるお言葉でした。先生は、相当頑張らなければ試験対策が間に合わないことや、まず今日からすべきことなどを丁寧に説明してくださいました。帰りに書店で千葉県の教職教養・専門教養・面接の3冊の過去問を購入し、この日から教採対策を始めました。

#### 3. 1次選考に向けて

私にまず必要だったことは千葉県の教員採用選考を知ることでした。教職教養や専門教養の出題範囲はどの程度か、1次と2次の試験内容は何か、購入した過去問を見て、これからの方針を決めました。千葉県の社会科専門教養は地理・歴史・公民すべての分野が網羅的に出題されるという特徴があります。私は地理を専門としており、歴史分野が右も左も分からないといった状態でした。そこで春休み期間を活用し、スタディサプリのスタンダードレベル日本史・世界史を全て視聴し知識のインプットを行いました。その後、センター試験対策用の問題集(共テよりも試験問題が似ている)を購入し、アウトプットも行って苦手な範囲の復習に努めました。また、これに並行して教職教養対策や面接対策は教職課程センターで開かれている対策講座で行いました。千葉県の教職教養は県独自の計画や施策が多く出題されるという特徴があります。対策講座に加えて県の教育振興基本計画等に目を通し、最低限の知識をインプットするように努めました。この他に、千葉県の1次選考の特色として集団面接・討論がありますが、私は筆記試験の得点率向上が最大の課題であり、特別な対策を行うことができませんでした。もう少し早く教採対策を始めていれば準備をする時間を確保できたのだろうと後悔しています。

#### 4. 2次選考に向けて

1次選考を終えたら、すぐに2次選考に向けた対策を始める必要があります。しかし、私は「まだ志望動機が練れていないから...」と面接の練習には取り組まないまま、無為に1次選考から1週間以上を過ごしてしまいました。ようやく私が面接練習に取り組むことができたのは、偶然教職課程センターで会った友人に、「とにかく1度やってみようよ」と声を掛けられたからでした。私の初めての模擬面接は惨憺たるものでした。いくら頭の中で考えていても、実際に面接の形式でやってみなければ、対策にならないことを痛感しました。それからは、教職課程センターで友人たちと集まり、模擬面接を何回も繰り返し、面接の形式に慣れていきました。自身が面接を受けるだけでなく、友人に質問をする立場や、その面接を第三者として見る立場になることで、様々な学びや気づきを得ることができます。しかし、私は面接練習を進めていくうちに、自身が本当に教員になりたい理由が分からなくなってしまい、大変苦しみました。目の前の試験対策も重要ですが、ときには立ち止まって、自身がなぜ教員になりたいのか、どのようなことを行っていきたいのかを、じっくりと考える時間も必要なのだと思います。また、千葉県の2次選考は個人面接の他に模擬授業があります。私は面接練習に打ち込むあまりに模擬授業の対策

はほとんどせずに試験当日を迎えてしまいました。1度でも良いから模擬授業のデモンストレーションを友人の前で行っておけば良かったと思います。

## 5. おわりに

この合格体験記は、早期から対策を始め、余裕を持って本番を迎えることが望ましいこと示す一方で、スタートダッシュに遅れたからといって、決して合格を諦めるべきではないことも示しているのではないのでしょうか。とにかく今日から何か始めてみましょう。そして指導員の先生や教職課程の友人に相談してみましょう。私が最後まで諦めずに教授対策に取り組むことができたのは、頼れる「よき師・よき友」が教職課程センターに集っていたからです。皆さんも決して諦めずに仲間をつくり、仲間と共に合格を勝ち取ってください。皆さんの合格を心より願っています。

---

## 複数の自治体を併願受験すること

Y.I. (法学部政治学科4年)

---

### 1. はじめに

私は令和6年度実施の教員採用候補者選考試験を4つの自治体で受験しました。受験自治体は①静岡県(中学・社会)、②福井県(中高共通・社会)、③東京都(中高共通・公民)、④福島県(中学・社会)です。静岡県は残念ながら一次試験で不合格となってしまいましたが、福井県、東京都、福島県では合格をいただきました。

計4つの自治体を志願するという異色の受験であり、多くの方々にとって参考にならない恐れがありますが、私にしかできない経験談ができると考えました。そこで本稿では、「複数の自治体の併願」に焦点を絞って私の経験を述べます。

なお、最終的な自治体の選択につきましては後述します。次項では併願受験に至った経緯を述べますので、「自分だったらどこを選ぶか」ぜひ想像してみてください。これから教員採用試験を受験する方にとって、「なぜ自分はその自治体の教員を志望するのか」を今一度見つめ直すきっかけになりますと幸いです。

### 2. 併願受験に至った経緯

私は自治体のこだわり以上に、教員になりたいというこだわりが強かったです。そこで、可能な限り多くの採用試験を受験して、少しでも教員になれる可能性を高めようと思いました。ただし、受験先の選定には全て明確な根拠があります。

私は神奈川県出身ですが、大学進学と同時に東京都で一人暮らしを始めました。神奈川県と東京都は試験日程が重複しているため、いずれか一方しか受験できません。その中で東京都を選んだのは、大学3年次選

考を受験することができたことや都内公立中学校での学習支援ボランティアの経験等が決め手です。

福島県は数年前に家族が移住した影響で、自分にとって第二の故郷と言えるほど縁がある場所でした。小学生の頃から何度も訪れるうちに、原発事故の帰還困難区域の復興に貢献したいという思いが強くなったため、受験を決意しました。

福井県は東京都と同じく、令和5年度に大学3年次選考を受験することができたことが受験のきっかけです。縁もゆかりもない未訪問の地でしたが、当時は3年次選考を行う自治体はかなり限られていたため、受験可能だった福井県には迷わず申し込みました。

静岡県は日程前倒し化の影響で、全国で最も早い5月上旬に一次試験を受験できたため、教育実習前に試験経験を積んで実力を試すという目的も兼ねて受験しました。

### 3. 併願のすゝめ

結論から申し上げますと、私は多くの方々に併願を推奨します。

併願することの最も大きな利点は、受験の場数を踏むことができる点にあると考えています。一発勝負である採用試験において、実践的な経験を積むことはとても貴重です。私は5月に受験した静岡県の筆記試験は不合格となりましたが、この結果を通じて自分自身の課題を発見し、本命の福島県の筆記試験までに改善を試みることができました。筆記試験も面接も回数を重ねるごとに、間違いなく向上していたと感じています。

また、複数の自治体を受験することで、自治体の教育施策等を比較できる広い視野が養われるという効果もあります。面接では「なぜこの自治体の教員を志望したのか」「この自治体にはどのような魅力があるか」という質問がほぼ必ずあります。もしも一つの自治体の情報しか収集していなければ、他の自治体にはない魅力を語ることは困難です。併願をすることで、必然的に他の自治体と比較することになるため、この種の質問への対応力向上が期待できます。

### 4. 併願の弊害

前述の通り、併願には多様な利点があります。しかし、当然ながら「負担が大きくなる」という弊害があります。

教員採用試験は自治体によって試験内容や対策の方法が大きく異なります。筆記試験の出題範囲や論文文の文字数、模擬授業試験の有無等が異なるため、受験する自治体の数だけ対策にかかる労力は大きくなります。

また、当然ではありますが、試験が多いため極めてハードスケジュールになります。私の場合、福井県と

東京都は令和5年度実施の大学3年次前倒し選考を通過し、4年次は一部の試験を免除されていたため、比較的日程の余裕はありましたが、それでもハードでした。東京都の論作文試験の1週間後に福島県の筆記試験が控えているという時期もあり、計画的に対策を進めていなければどちらの対策も中途半端になってしまう恐れもありました。

もしも併願をするのであれば、試験内容が類似している自治体や試験日の間隔に2週間以上ゆとりがある自治体を選択することを強く推奨します。

## 5. 自分の価値を活かす選択を

橋本先生をはじめとした教職課程センターの皆さんと一緒に戦い続けてくれた友達のおかげで、福井県・東京都・福島県の三都県から選択する機会をいただきました。

東京都には学習支援ボランティアや教育実習でお世話になっていました。しかし、当初から第一志望として考えていた第二の故郷である福島県の復興・創生に貢献したいという思いも捨てきれませんでした。

熟考の末に私が選んだのは、縁もゆかりもない福井県です。運良く3年次選考を受験できたというきっかけから始まりましたが、福井県の教育施策への関心や新天地で挑戦したいという思いは当初からありました。それでも東京都にも福島県にも魅力を感じていたため、発想の転換を図り、「自分にとってその地域にどのような魅力があるのか」だけでなく、「その地域にとって自分自身にどのような価値があるのか」を考え、それぞれの地域における自分自身の希少価値を問いました。神奈川県出身、東京都在住、福島県に家族がいる私の背景・個性を最も活かせるのは福井県ではないだろうかと考えました。これが最後の決め手です。

## 6. 最後に

新卒1年目から正規教員として働くことにこだわることも、希望する自治体で教壇に立つことにこだわることも素敵なことです。大切なことは、「なぜこだわるのか」を自分の中で明確にして言語化し、自分のこだわりを順序づけることです。自分のこだわりを実現するための一つの選択肢として、併願受験を一度考えてみることを推奨します。

本稿を最後までお読みくださり誠にありがとうございます。末筆ではございますが、皆様がよりよい人生の選択をされることを心よりお祈り申し上げます。

---

## 教員採用試験を受ける君へ

K.N. (文学部日本文学科4年)

---

### 1. はじめに

私は、今年度(令和6年度実施)の相模原市教員採

用候補者選考試験を受け、中学校国語科で合格することができました。私が無事合格することができたのは、教員採用試験を受けるにあたり、関わってくださった全ての方々のおかげです。過去の私のように、教員採用試験に希望や不安を抱えている方への助けとなるよう執筆します。

## 2. ゴールからの逆算、即行動

私は、教員採用試験で合格することを目標として、「教員採用試験一ヶ月前には〇〇でいよう」や「一ヶ月前には〇〇でいるためには、今から△△しよう」と逆算して、計画を立てていきました。私にとっては、この“ゴールからの逆算”計画が自身を合格に導く大きな要因となった気がしています。相模原市教員採用候補者選考試験までの主なスケジュールとして、7月上旬に一次試験があり、8月中旬に二次試験となっています。このスケジュールから逆算して、私は、一次試験対策は、半年前から始めて、一次試験の2ヶ月前から過去問を解くようにしたり、二次試験対策も半年前から始めて、二次試験の1ヶ月前には、毎日誰かと面接練習をしたりしようと計画を立てました。この計画は、人それぞれ自分に合う試験対策スタイルがあると思うので、自分に合った試験対策スタイルを計画することをおすすめします。

大切なことは、“常にゴールを追い続けて行動する”ということです。せっかく良い計画を立てても行動しないのでは、計画を立てていないことと同義です。ゴールからの逆算をし、計画を立て、すぐに行動に移すことが合格に繋がります。

## 3. 自分と向き合うこと

私は、進学するにあたって、筆記試験や面接を受けたことがありませんでした。そのため、面接練習を人生で1回もしてこなかったことが仇となり、面接が本当に苦手でした。元々、人に何かをわかりやすく伝えることが得意ではなかったこともあり、面接に対して苦手意識を持っていました。二次試験2ヶ月前になっても、面接で上手く受け答えができずに悩んだことがありました。周りに「練習していれば上手くなるよ」と言われても、全く上手くなる気配がなかったからです。私は、何故上手く受け答えができないのか真剣に考え、自分の考えや意見に向き合っていなかったからだ気付くことができました。

大切なことは、“自分と向き合うこと”です。私は、面接が苦手な自分と向き合い、面接対策として、自分の考えや意見を書き起こす作業を何度も繰り返しました。私は、考えや意見を書き起こす作業を行い、自分の考えや意見と向き合い続け、後に、上手く受け答えができるようになりました。自分の苦手分野、自分の考え、自分のなりたい姿が何なのか捉え、向き合うこ

とで、自分が何をしなければならぬのかに気が付くことができます。

#### 4. 周りの人のおかげ

私は、この教員採用試験を誰かの支えなしでは合格できなかったと思っています。合格できたのは、教職を通して出会った人たちだったり、教職課程センターでお世話になった先生方だったり、一次試験対策、二次試験対策に付きあってくれた両親のおかげです。皆、面接練習では面接官役をやってくれたり、模擬授業では生徒役をやってくれたりしました。フィードバックや感想も沢山くれて、自身の励みになっていき、成長に繋がりました。

教員採用試験は、最終的には自分の持っている力で戦わなければならないものですが、自分の力をより強力なものにする過程で、様々な人の協力があります。周りの人に甘えたり頼ったりしながら、自分の力を形成して行って欲しいなと思います。

#### 5. おわりに

これから教員採用試験を受ける皆さんに、そして、合格した自分自身に伝えたいことは、「合格してからが勝負だ」ということです。教員採用試験に受かって終わりにするのではなく、受かってからが始まりです。教員採用試験を受ける皆さんには、「教員採用試験に合格して、どのような教員として働きたいのか」を大切に、試験対策に取り組んでほしいです。

今回執筆したことは、誰かにとっては厳しく聞こえてしまうかもしれません。私は現に、自分に厳しすぎたのかなと後悔しています。ですが、自分に厳しくしていたからこそ、「やりきったな」と思えるような教員採用試験でした。時に厳しく、時に優しく教員採用試験を乗り越えて行ってください。教員採用試験を受ける全ての方々が合格できるよう応援しています。頑張ってください。

---

### 「教師になりたい人へ」

T.K. (社会学部社会学科4年)

---

#### 1. はじめに

私は、東京都に位置している私立高等学校の教員として採用されることができました。静岡県と東京都の採用試験も受験したのですが、それぞれ二次試験不合格、特別支援学校(社会)辞退という結果になりました。この経験を通じて、幅広い視点を皆様に共有できればと思っています。

#### 2. 一次試験対策

一番大事なことを結論から言うと、「早めに試験対策に手を付けること」。これに尽きると思います。皆さんご存じの通り、採用試験の範囲は教職教養・専門

教養・小論文・面接など多岐にわたるからです。それに、周りの就活が終わっていく中で必ず夏ごろまで対策を続けなければいけないメンタル面の問題に加えて、教育実習期間はほとんど勉強する時間がないことを考慮すると、遅くとも12月ごろには試験対策を開始しなければなりません。

どんなことも魔法のような特別な対策方法や劇的な成長は、そう多くはないと思います。毎日コツコツと努力を重ねられた人が受かる試験だと思います。

#### (1) 教職教養

私は大学3年生の初めには参考書を買って、空き時間に目を通す程度の勉強から始めました。買った本は「教職教養らくらくマスター」です。全く勉強をしていない人にとっては勉強しやすいもので、基本的な語句や問題が載っています。個人的には、時間が経つにつれてこの本だけでは不十分だったので、YouTubeで補足学習を行っていました。

さらに今思い返すとこの期間、特殊なことをしていたなと感じています。それは友人と教職教養のテストを出し合うことです。1週間に1度、自分たちで決めた範囲内の問題から、お互い小テストを作り解きあっていました。友人と一緒に勉強することでモチベーションになることはもちろんのこと、自分で考えて出題した問題は絶対に忘れませんでした。出題者の気持ちになってテストを作っていたこの経験は、本番でも大きな力になっていたと思います。

#### (2) 専門教養

東京都・中高地理歴史の試験に絞って言うと、専門教養は(地理・日本史・世界史)の中から1教科を中心に受けますが、他の2教科も共通問題として出題されます。私も初めは「捨て」でいいかなと思っていましたが、しっかり調べてみると「基準点」を満たしていないと1教科が良くても落ちる可能性があるようで、割とバランスよく勉強する必要があります。

私が選択した日本史は、大学受験以来の勉強だったので、ほとんど1から学びなおしました。これも参考書とYouTubeを活用し、ほかの試験対策と並行しながらだったので最低2,3日に一度は学習していました。

他2教科もバランスよく学習する必要があるのですが、高校の基礎レベルの問題であったのに加えて、4問程度しか出題されないと分かっていたので日本史よりは学習頻度は多くなかったです。ただ、基礎レベルを網羅するためにYouTube等の動画教材やレベルに合った参考書で学習していました。どちらにしろ、自分に合っている勉強スタイルを確立し、継続していくことが大切だと思います。

### (3) 小論文

どの自治体でも、小論文は重視される傾向が強いです。恥ずかしい話、私は教職教養・専門教養でそれぞれ9割・8割の点数を取ることができたのですが、恐らく小論文の出来で落とされてしまった経験があります。そのためこのパートでは合格者としてのアドバイスはできませんが、しておけばよかったと思う対策についてお話しできればと思います。

私はまず3年生の9月頃から教職課程センターに通いました。週に1回程度小論文を書き、先生に手直しして頂きました。ただ私は、先生に「メールでも直接でもいつでも小論文を送ってくればアドバイスして手直しします」とおっしゃって頂いたのにも関わらず、その頻度は非常に少なく月に1回あるかないか程度だったと思います。教養の勉強は、極論1人でも達成することができますが、小論文は客観的な意見をもらうことが重要だと痛感しました。ウェブや参考書で勉強できると思っている人でも、誰かに見てもらって添削して頂く機会がないと採用試験の小論文フェーズの突破は難しいと思います。教職課程センターに通うことが難しい人でも、友人や親などに見てもらって必ず、素直で客観的な意見を吸収することを心掛けたほうが良いと思います。

### 3. 二次試験対策（面接）

面接も同様、12月・1月ごろから教職課程センターで実践と反省を繰り返しながら練習していましたが、私が1番苦労したことは伝えたいことを簡潔に伝えることです。話していると思わず、あれこれと言いたくなってしまうことがあるかもしれませんが、あえて余計なことは言わず試験官との「会話」を楽しむモチベーションで臨むことが良いと思います。その上で、自己分析は1番とっていいほど大切なフェーズだと思います。なぜ教師を目指すのか、どんな性格が教師に向いているのか、将来どのような教師になりたいのかといったことです。私はなんとなく高校教師にあこがれを持ち、なんとなく部活指導を通じて自分の好きなスポーツと関われるからという理由で目指し始めましたが、分析してみるともっと深いところに教師としての魅力を感じました。ほかの職業にはない教師の魅力や将来は何なのか。自分なりに1度考えてみるとすっきりして面接に臨むことができると思います。

### 4. おわりに

私は公立高校の採用試験に不合格だったり辞退したりといった経過で、結果的に私立高校教員として働くことになりましたが、どの学校でも教員になるにあたって大切なのは志だと思います。これを読んでいる人は、その志が備わっていると思いますし、その気持ちを大事にしてほしいと思います。試験勉強の中で挫

けそうになったり、試験に落ちてしまう場合もあるかもしれませんが、1度試験に落ちてでもまた来年、また来年とチャレンジすることができます。あまり周りと比べずに、自分の志を大切に、一心に自分の夢に向かって頑張ってください。

---

## 【合格体験記】

N.S. (社会学部社会学科4年)

---

### 1. はじめに

私は今年度、東京都教員採用試験中高社会科、併願で特別支援学校を受験し、特別支援学校で合格することができました。私が合格できたのは、教職課程センターの方々や、すでに合格している先輩方が様々な指導・助言をしてくださったおかげです。教員採用試験を受験するにあたり私が実践した勉強方法や学校ボランティアなどの経験が少しでも参考になれば幸いです。

### 2. 勉強方法

#### 一次試験

#### ○教職教養

はじめに過去問を1年分解き、教職教養の出題方法（教育原理・教育史・教育心理などの割合）の様子をつかみました。そして、市販の教職教養のテキストを使って、インプットとアウトプットを繰り返し行います。1冊を一通り学習できたら、東京都の過去問を4～5年分解きました。法律の改正や難易度が変わっているため、過去4～5年分解きました。知識が定着し時間に余裕がある場合には、全国の教職教養過去問を解くと良いと思います。

#### ○専門科目

大学受験で日本史を選択していたため、地理・歴史を選択しました。東京都の地理・歴史の過去問を5年分解きました。覚えられないまで何度も繰り返し問題を解きました。全国の教員採用試験社会科の過去問を集めた市販の本を合格した先輩からおすすめされ、私も活用しました。本の中で重要な問題が数多く出題されているため、勉強時間をたくさん取ることができなかった私は重宝しました。

#### ○小論文

小論文というものを書く機会が初めてであり、文章を書くことが苦手であるため、一番苦労しました。苦手でも教職課程センターの先生が、丁寧にアドバイスをくださるので、諦めずに頑張ることができました。対策を始めたのは、3年生の10月から始まった教職課程センターでの講座です。はじめは、1つの小論文の構成を考え書き上げることに、3～4時間かかりました。添削していただいたら、また同じテーマで何度

も書き直しをして、内容の質を高めることが重要です。はじめのうちは、たくさん時間をかけて良いと思います。しかし本番で一番重要なことは時間内に書き上げることなので、3年生の3月以降は70分を守りながら書きました。書けば書くほど上手になるので、根気よく頑張ってください。

## 二次試験

### ○面接

はじめは、面接の回答集を作りました。そして、教職課程センターの先生に面接練習をしてもらい、アドバイスをいただく中で回答内容の精度が高まってきました。また、繰り返し練習することで自分の考え、回答の論理展開が定まってくるため、一通り回答内容が決まったら、たくさん練習することが大切です。まずは一次試験に合格することが最優先であるため、面接練習を本格的に始めたのは、4年生の4月ごろからでした。子どもと関わった経験などを面接で聞かれるケースが多いため、ボランティア活動など子どもと関わる経験を積むことをおすすめします。

### 3. 学校ボランティアでの経験

私は大学3年生の後半から、学校ボランティアとして公立中学校で別室登校の生徒の学習支援や授業補助、市が運営している不登校生徒を対象としている適応指導教室でサポーターとして活動をしていました。

ボランティア先では、現役で働いている先生やかつて教員として働いていた経験を持つ先生と直接関わる機会があり、大変勉強になりました。子どもとの関わり方で困った時には、先生からのアドバイスをお聞きし、改善に努めていました。私は、ボランティア先の先生にも小論文の添削をお願いしました。

教員採用試験の勉強と並行して、ボランティア活動に参加し子どもたちと関わることで、勉強になりつつもモチベーションも上がり息抜きにもなるのでおすすめです。

### 4. 最後に

4年生の6月頃、私は母校で教育実習をしました。授業準備等に日々追われ、教員採用試験一次試験の直前期に採用試験の勉強時間を取ることができず、内心とても焦りました。しかし、教育実習自体が教員になるにあたってとても重要な勉強の機会です。また、面接の中でも、教育実習について質問されます。教育実習中は、実習に集中することをおすすめします。

教職課程センターをたくさん利用して、辛い時も教員になるという思いを忘れないでください。みなさんの合格を心より願っております。

## 【教採は対策したもん勝ち】

N.S. (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

### 1. はじめに

私は令和6年度実施の横浜市公立学校教員採用候補者選考試験を受験し、「中学校・高等学校 保健体育」で合格をいただきました。ここでは、私が受験するにあたって意識したことや、ここがポイントであると感じたことについて書かせていただきます。少しでも、教員採用試験を受験するみなさんの力になれば嬉しいです。

### 2. 一次試験について

横浜市の教員採用試験は、一次試験で「筆記試験」、「論文試験」が行われます。(ただし、論文試験は二次試験の試験項目となるため、実質筆記試験のみでの採点となります。)まず、筆記試験は「一般教養」、「教職教養」、「教科専門」の3つに分かれています。一般教養では、社会人としての基本的な教養として、これまで義務教育で習ってきたような知識が問われます。国数英理社さらに音楽美術も出題されるといった具合に、広範囲にわたる出題となっています。教職教養では、教育原理、教育心理、教育法規など、教員として働くための基本的な知識が問われます。一般教養も教職教養も、応用ではなく基本が問われる傾向が強いため、身構えずにどんどん知識をつけていきましょう。対策としては、まず過去問を解いて問題の出題傾向を把握するとともに、自身の苦手な範囲を洗い出すことをおすすめします。その上で参考書等を活用し、苦手を克服していきましょう。また、並行して問題集をひたすら解くことで、実践に慣れることも大切です。一方で教科専門は、自身が受験する校種・科目の専門的な知識が問われます。横浜市の保健体育教科専門は、教科の目標やA～Hの各領域についての空欄補充問題が出題されます。対策としては、一般・教職と同様の流れで進めると良いですが、例年の傾向からして中学校の学習指導要領解説からしか出ないと考えられるため、学習指導要領解説を丸暗記したほうが手取り早いと思います。私自身はそのように対策しました。過去問で空欄になりそうな箇所の傾向を把握し、そこを意識しながら暗記することをおすすめします。次に論文試験ですが、横浜では当日にテーマが発表され、制限時間内に書きあげる形式となっています。こればかりは何のテーマがくるか予想がつかないので、様々なものに対応して小論文を書けるようにしておくことが大切です。私は教職課程センターの講座を利用させていただいていました。専門の先生方に小論文の基本的な書き方を教えていただけるとともに、添削をいただくことができるので、めきめきと書く力がついてい

きます。教職課程センターでは、教員採用試験にむけた幅広いサポートをいただけるため、ぜひ利用した方が良いと思います。一次試験は早めに対策したもん勝ちです。先が見えないかもしれませんが、めげずにどんどん勉強しましょう。

### 3. 二次試験について

横浜市の中高保健体育二次試験では、「模擬授業」、「個人面接」、「実技試験」が行われます。まず模擬授業ですが、当日にテーマが発表され、その場で10分間の授業を考え、試験官の前で実際に授業を行う形となっています。対策としては、どのテーマが来ても良いように、すべての単元の模擬授業を作っておくことが有効です。私はそうすることで、落ち着いて授業を行うことができました。また、教職課程センターの先生やゼミの先生、友人などに実際に授業を見てもらい、アドバイスをもらうことも大切です。次に個人面接ですが、模擬授業後にそのまま試験官と30分程度面接を行います。内容としては、事前に提出した面接シートを基に、自身の経験や考え方、教師としての資質や能力について聞かれました。対策としては、様々な先生や友人と実際に面接の練習をしておくことが有効です。また、理想の教師像や指導観など自身の軸を確立しておくことで、一貫した内容を話すことができるため、自分をよく分析しておくことも重要です。最後に実技試験ですが、横浜市ではB～Gまですべての領域で試験が行われます。そのため、どの内容が来ても良いように幅広く練習をしておくことが求められます。対策としては、各種目に特化した先生や友人に協力いただき、指導を受けることが有効です。全て完璧にできる必要はなく、競技や演技のポイントを押さえればよいので、自信を持って行えるようにしましょう。横浜市の二次試験は1日で行われるため、とても疲れます。前日はしっかりと体を休めて、ベストコンディションで臨めるようにして下さい。

### 4. おわりに

よく受験は団体戦だと言いますが、的を射ていると思います。今回私がいただいた合格は、自分だけの力ではなく、教職課程センターの皆さまや学部の先生方、一緒に戦ってくれた友人たちのおかげだと思っています。手を貸してくれる方々に感謝しつつ、利用できるものはどんどん利用して、貪欲に対策していくことが合格への近道だと思います。ただしあくまで体が資本であり壊してしまったら元も子もないので、決して無理はせず、適度に息抜きしながら対策に励んでください。応援しています。

---

## 【自分の夢に向かって】

S.T. (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

---

### 1. はじめに

私は今年度東京都教員採用候補者選考を小中高共通・保健体育で受験し、合格をいただくことができました。教員になるために私が取り組んでいたことを皆さんにお伝えし、少しでも力になることができれば幸いです。

### 2. 3年前倒し選考

東京都は令和5年度東京都公立学校採用候補者選考から「大学3年前倒し選考」を実施しています。「大学3年前倒し選考」とは、大学3年生の段階で教職教養と専門教養を受験することができる仕組みです。今までは大学4年生で教職教養・専門教養・小論文・面接・実技これらすべての準備をする必要がありました。しかし、この選考のおかげで、3年生では筆記だけに集中し、合格することができれば4年生で負担を軽減することができます。実際に私も合格したことによって、合格してからの1年間に余裕ができ、小論文や面接の準備をする時間に使うことができました。また、たとえ合格することができなかったとしても、4年生にもう一度チャレンジすることができ、一度受けていることによって、問題の傾向や会場の雰囲気を知ることができるため、皆さんもぜひ前倒し選考を活用してみてください。

### 3. 教職教養

最初は範囲が膨大でどれだけ勉強しても、なかなか定着せず、諦めてしまいそうでした。

そこで私はとにかく過去問を解きました。過去問を解くことで東京都の傾向を掴み、どこを重点的に勉強すればよいのかを知ることができます。また、東京都だけでなく、東京と似た傾向の自治体の問題もたくさん解き、間違えたところの解説をよく読み、その問題を理解することをたくさん繰り返しました。その結果点数もだんだんと伸びていき、最終的に合格ラインまで達することができました。試験自体のコツとしては、マークシートであるため違うと思った選択肢を減らしていくことが大切です。難しい問題でも問題文と選択肢をよく読み、学習した知識を活用すれば最終的に3択くらいまでに絞ることができます。そのため、分からない問題や難しい問題でもあきらめず、粘ることが大切です。

### 4. 専門教養

専門教養では、まずはたくさんスポーツを見ることをお勧めします。私の場合長時間勉強することが苦手であるため、実際にスポーツを見ながら競技の特性やルールなどを覚えていきました。文字で覚えるよりも

目で見て覚えるほうが私の中ではとても定着しやすかったです。また YouTube などだけでなく、会場に足を運び目の前で見ることを是非行ってもらいたいです。その競技の面白さを肌で感じることができ、試験があるから勉強しようという気持ちではなく、純粋にそのスポーツについてもっと知りたいという気持ちが湧いてきます。そのため、専門教養については大きな負担にならず楽しく学ぶことができました。もちろん教材や資料集などで勉強することも大切ですが、自分なりに工夫して、どのように勉強すればよいのかをどんどん見つけてほしいと思います。

## 5. 小論文

小論文はとにかく書いて、フィードバックをもらうことです。私も最初は全く書けませんでした。時間も足りない、内容も一貫性がない、表現の仕方も変。こんな状態から始まりました。ただ教職課程センターが実施している小論文講座に参加し、書いてはフィードバックをもらうことを繰り返していくことで、だんだんと形になっていきます。小論文は一つ書くのに70分かかると、時間があるうちに何度も練習しておく余裕ができてくると思います。特に小論文は一人で勉強することが難しいため是非教職課程センターを活用してみてください。

## 6. 面接

面接ではまずは自分のことを知ることがとても大事です。自分が何を考え、どのような気持ちでこの教員という職業に向き合っているのか。これがとても大切であり、面接だけでなく、教員になったときの軸にもなります。また考えたことをどんどん言葉にするのも大事です。たくさん自分自身について考え、様々な場所で伝えていくことで必ず自分の軸が見えてくると思います。なにが自分を突き動かしているのか理解できれば、どのような質問であってもそれに基づいて答えていくだけです。むやみやたらに質問に対する綺麗な答えを探そうとせず自分の言葉で答えられるようなものを見つけてほしいと思います。

## 7. 実技

実技テストは、跳び箱（抱え込み跳び、台上前転）、水泳（25メートル平泳ぎ、背泳ぎ）、バスケットボール（左右レイアップ）、剣道（胴打ち、切り返し）の4種目でした。私は水泳が特に苦手だったため水泳実習を履修し、練習に励みました。最初は25メートルクロールで泳ぐことも怪しかった私が、先生方や一緒に授業を受けていた仲間のおかげで最終的には平泳ぎ、背泳ぎで25メートル泳ぐことができました。実技に自信がない方も今のうちからたくさん練習すればどんな種目でも必ず身に付けることができるので頑張ってください。

## 8. 最後に

私は自分の夢であった教員になるためにたくさんの準備を重ねてきました。もちろん途中で勉強が嫌になり、投げやりになってしまう時もありました。そういった時には、自分のなりたい姿を再確認することや同じ夢を持つ仲間たちと協力することによって、何度も向き合うことができました。その結果来年度から教員として働くという自分の夢をかなえることができました。皆さんも教員になりたいという思いがあれば絶対に大丈夫です。自分のなりたい姿に向かって今できることに全力で取り組んでほしいと思います。頑張ってください。

---

## 教員採用試験に向けて

R.S.（理工学部電気電子工学科4年生）

---

私は今年度、東京都の数学中・高共通の教員採用試験に合格することができました。私の経験が少しでも教員を目指している方の参考になれば幸いです。

### 1. 教員採用試験の対策について

#### (1) 専門・教職教養対策

東京都の教員採用試験では、専門教養と教職教養についての試験があります。専門教養とは自身が受験する教科・科目に関する問題が出題される試験です。出題されるレベルとしては、大学入試で出題される中の基本的なレベルです。また、教職教養とは学校教育法や教育基本法などの教育に関する法の内容や、教育の理論についてなど、教員として必要な知識や理解を問われる試験です。出題される範囲が幅広いため、東京都の出題される問題の傾向を掴み、勉強する範囲を絞ることがポイントになります。

私は大学3年生前倒し選考を利用し、3年時に一次試験を通過しました。そのため、私が試験対策を始めたのは試験の約半年前の2年生の2月ごろです。実際に自分がおこなった対策として、専門教養は大学受験のときに使用していた、基礎的な問題を集めた参考書と、高校の教科書を用いて基礎固めをしました。そして東京都教員採用試験の専門教養の過去問を5年分解き、傾向や問題のレベルを掴みました。また教職教養は、すきま時間を利用して一問一答形式の参考書を解き、理解を深めました。さらに教職教養の過去問も5年分解き、問題の解説を覚えるまで読み込みました。専門教養も教職教養も時間をかけて丁寧に対策をおこなうことで、本番も余裕をもって試験に臨むことができるので、早めに勉強を始めることをお勧めします。

#### (2) 小論文対策

東京都の小論文は、1題の問題文に対して910字以上1050字以下で記述する試験です。小論文はある程

度の型が決まっており、それを自分なりの言葉で書けるように何回も練習することが大切です。また、書いた小論文は誰かに添削を依頼することをお勧めします。私は教職課程センターの齋藤先生に何度も添削をしていただき、自分の型を見つけることができました。

小論文は、序論・本論・結論に分けて記述していきます。序論では問題の確認や教育現場の現状、そして問題に対する自身の考える対策について記述します。本論では自身の経験から考える対策についてなるべく具体的に記述し、結論では再度問題の確認と、教員としての決意を述べるように書きます。このように小論文はある程度の型が決まっており、それを自分の中に落とし込んでいくことが重要になります。

### (3) 面接試験対策

東京都の面接試験は、高校の教室で3人の面接官の方と30分間ほどおこないます。3人の方で役割分担をしており面接票の内容、教科に関する内容、生徒指導に関する内容などについて聞かれます。面接の対策はとにかく数をこなすことが大切で、面接の場の雰囲気になれることで面接官の方に自身の考えや熱意を伝えることができるようになります。面接の本番は緊張するので、何を伝えたいか、質問に対してどう答えるかなどを事前に念入りに準備しておく必要があります。特に面接票に書いた内容に対しては、面接官の方から必ず質問がきます、それにしっかりと答えることができるように準備を怠らないようにしましょう。

## 2. 試験当日の対応

### (1) 1次試験（筆記試験）

1次試験は、前倒し選考も4年次の小論文試験もどちらも同じ、中野にある大学のキャンパスが会場でした。すべての受験校種の受験者が集まるので、想像していたより受験する人数が多く感じたことを覚えています。試験開始前までは簡単に復習をして、なるべく落ち着いて試験を受けられるようにしていました。特に教職教養は毎年よく出ている内容についてしっかりと復習し、そこを落とさないように気を付けました。

### (2) 2次試験（面接）

2次試験の面接会場は、都内の高校の教室でした。午前、昼、午後の3組に分かれて集合時間が決まっており、1組3人ずつくらいに分かれていました。そのため面接の順番が3番目になると、待機室で1時間から1時間半ほど待つことになるので面接の対策を直前までおこなえる半面、ずっと緊張していると疲れてしまうので注意が必要でした。また、面接を実際に受けてみて感じたことは試験というよりは、受験者の人柄や雰囲気をしているように感じました。そのため質問に対して正解を求められているよりは、答え方や会話の仕方などを見ているなと感じました。私は面接中も

かなり緊張していて、とんちんかんな答えも言っていたと思いますが、面接官の方はなぜそう考えるのかなどを優しく聞いてくださり、自分なりの考えを言葉にすることができたと思います。

### 3. 教員採用試験を振り返って

私は、大学3年生前倒し選考を利用したので教員採用試験に向けた勉強は、1年半ほどしていたことになります。また、4年次では小論文と面接の対策のみに絞ることができ、多くの時間をかけることができたので、本番でも余裕を持つことができました。4年次では教育実習があり、かなりスケジュールが詰まっているので、教員採用試験の対策を早め早めにしておいてよかったなと思いました。これから教員採用試験に向けて勉強を始める方や、すでに始めている方も試験に向けた見通しを立てて、余裕を持ったスケジュールを作ることが重要だと思います。教員を目指す皆さんのことを応援しています。最後までお読みいただきありがとうございました。

---

## 私立中・高教員採用試験を通して感じたこと

C.Y. (生命科学部環境応用化学科4年生)

---

私は東京都内の私立女子中高一貫校の理科(化学科)の教員採用試験に合格しました。私立中高一貫校の教員になりたいという想いが強かったため、公立の採用試験は受験しませんでした。この体験記が、私立の教員採用試験に挑む方の参考になれば幸いです。

### 1. 受験校の決定について

私立は公立と違い、自分で受験する学校を決めるるところから始めます。私は4年生の4月頃から、教職課程センターで教えていただいたサイトをほぼ毎日チェックしていました。また、気になる学校については、ホームページの採用情報をこまめにチェックしたり、直接学校に電話して採用予定を確認したりしました。理科(化学)の教員募集はとて少なかったですが、勤務地や校風等を考えながら根気よく探しました。実際に応募して受験した時期は夏でした。

### 2. 私立の採用試験について

私立の採用試験は、学校によってまちまちです。一般的には、書類選考、面接、専門科目の筆記試験、模擬授業、最終面接です。それぞれ日程を分けて行われます。その都度学校に足を運ぶため、学校の様子を知ることができます。一般教養、教職教養の試験や論文試験を行う学校もありますが、私が受験した学校では行われませんでした。

### 3. 専門科目の対策について

難易度は学校にもよりますが、大学入試レベルです。公立よりも難易度が高いので、しっかり復習しておく

必要があります。新課程には、私が高校時代に学んだ内容とは異なる部分があるため、教職課程センターにある教科書を借りて利用しました。また、新課程に対応した問題集を買って解いたり、最近の共通テストを解いたりして対策しました。私立の採用試験の過去問はないので、採用試験を受ける学校の生徒の大学進学状況などを調べ、そのレベルにあった対策をするのが有効だと感じました。

#### 4. 面接の対策について

面接は教職課程センターの齋藤先生の指導を受けて対策をしました。教職課程センターが主催している面接対策イベントにはすべて参加し、経験を積みました。齋藤先生との面接練習では、その様子の動画を撮影し、それを見て復習したり、表情やしぐさの確認をしたりしました。また、採用担当の経験のある方を含めた面接官3人との個人面接練習は、実際の面接に近い状況で、よいシミュレーションになりました。アナウンサーの方の話し方講座では、入室の仕方やマナーを含め、学ぶことが多く、非常に役に立ちました。

私は、なぜこの学校を選んだのかをしっかりと考え、その学校の特色を理解しておくことが大切です。私は学校ホームページを隅々まで読み込みました。その中で自分が共感を持ったところを自分の言葉で説明すると、面接官の反応が良かったです。場面指導については、齋藤先生が準備してくださった質問一覧に対して、自分の考えを述べられるようにしておきました。

#### 5. 模擬授業の対策について

最終面接の際、私の模擬授業がよかったと校長先生が言ってくださり、私立学校の採用試験において、模擬授業はとても重視されるのだと感じました。模擬授業を行う単元や授業方法の詳細がわかるのは、書類選考や面接選考の通過後なので、準備期間は1週間程度でした。模擬授業の時間は、50分や、導入部分の20分といったように、学校によって異なります。授業を作る際は、学校からの授業内容の指示をよく読み、求められている内容をしっかりとつかみ、それに即した授業を作るよう留意しました。また、黒板のみ使用可、資料配布は可などの指定がある場合とない場合があります。指定がなく、プロジェクター等が使えるかわからなかった場合は、黒板のみでの授業展開を準備していきましました。授業を作る際にも、学校ホームページなどを参考にし、普段の授業の様子を探ってみると作りやすいと思います。授業を作った後、齋藤先生と辻本先生に見ていただき、その時のアドバイスをもとに、当日まで家で何度も練習しました。

#### 6. 最後に

私の同期の中で、理科の教員を志望していたのは私一人でした。そのため、協力して試験対策を行う仲間

がいませんでしたが、ぜひ皆さんは仲間と励まし合いながら臨んでください。良い結果になることを祈っています。

---

### 教員採用試験に向けて

S.T. (理工学部創生科学科4年)

---

私は今年度、東京都の数学中学校/高等学校、私立高等学校の教員採用試験に合格することができました。私の経験が少しでも教員を目指している方の参考になれば幸いです。

#### 1. 東京都教員採用試験について

東京都では、一次試験で教職教養、専門教養、論文があり、二次試験では個人面接があります。2023年から3年生前倒しが始まり、3年生で一次試験の教職教養、専門教養を受験できるようになりました。チャンスが2回になると思い私は3年生で前倒しを受験し、4年生で論文、個人面接を受けました。

#### 2. 専門教養・教職教養について

専門教養は、内容は高校数学の範囲がほとんどです。私は高校数学の基礎の復習から始め、大学入試レベルの問題を解いて勉強していました。難易度はそこまで高くありませんが、問題数が多いため時間を考えながら解く必要があります。直近数年分の過去問がホームページに載っていたので、過去問題集は使用せず時間を測りながら練習をしました。

教職教養は、範囲は広いですが、頻出範囲が決まっており、そこを押さえれば基本的には問題ありません。私は過去問からやってみようと思いましたが、2割もわからず参考書で勉強を始めました。しかし範囲が広いので、過去問と照らし合わせながら近年の傾向、頻出範囲を重点的に勉強しました。

#### 3. 論文について

論文は自分一人ではどうにかしようとしてもできないので、教職課程センターを頼りましょう。東京都は型を覚え、その通りに書ければ問題ありません。私は文章を書くことがあまり得意ではありませんが、自分で考えて書く部分はほとんどないので、書くことが苦手な人も心配しなくて大丈夫です。自分の中で型が決まれば、それ通りに練習を重ねましょう。

#### 4. 個人面接について

面接も論文と同様に、教職課程センターを頼りましょう。論文もですが、面接は練習を重ねることで慣れていき、受け答えがきちんとできるようになります。基本的に聞かれることが面接表に書いたことなので、自分が自信を持って答えられる内容を面接表には書きます。踏み込んで聞かれたときに答えられないような内容を書かないようにしましょう。

個人面接は、面接官に自分のことを知ってもらう場です。面接官との会話のラリーをして自分に興味を持ってもらえるようにする必要があります。自分の中で話したい内容がある程度定め、そこに興味を持ってもらえるようにしましょう。

## 5. 私立採用試験について

私は私立校が第一希望で、東京都も一応受けておこうと思い、採用試験を受験しました。私立は学校によって特色が大きく異なるため、自分でリサーチをする必要があります。色々な学校が集まって採用説明をする会があるので、そういった場に足を運び自分が興味を持った、自分に合う学校を探します。

私立の採用試験は基本的に書類選考、筆記試験、模擬授業、面接です。筆記試験はないところもありますが、書類選考、模擬授業、面接は必ずあります。一番重要なのは模擬授業です。内容や時間は学校によってそれぞれで、プロジェクターや電子黒板などが使えるところもあります。取り入れるほうがいいとは思いますが、使い慣れている方を選択するのが1番です。

私は黒板のみで授業しました。論文、面接と同様に練習を重ねる必要があります。その授業の中で自分が伝えたいこと、大切にしたいことを聞かれます。それをまず始めに決めて授業を作ることが必要です。

## 6. 最後に

私は中学生のときから教員一本で考えていました。それは大学に入っても変わりませんでした。4年生になって就職が決まった人がどんどん増えていき、不安になることが多かったです。公立は特に1回の試験しかありませんが、対策を十分に行えば合格できます。プレッシャーに負けず自分の力を発揮してください。最後までお読み頂き、ありがとうございました。

---

## 教員採用試験について

F.R. (理工学部創生科学科4年生)

---

本体験記では、私が令和6年度東京都教員試験を受験した際に感じたことや、対策の方法について書かせていただきます。この合格体験記が教員採用試験に挑む方の参考になれば幸いです。

### 1. 東京都教員採用試験について

私の代から東京都の教員採用試験では3年生前倒し受験という制度が始まりました。私はこの制度を利用し、大学3年生で専門教養(数学)と教職教養の試験を受けて通過し、大学4年の7月に小論文試験、8月に二次試験である面接を受け、無事合格をすることができました。全体を総じて、とにかくスケジュール管理が上手くいったという感想を持っています。以下、それぞれの試験における対策について述べていた

できます。

### 2. 専門教養・教職教養について

専門教養・教職教養については、最も大切なのは学習開始時の自分の能力の現在地を把握し、合格のために必要な努力量を逆算した上での計画を立てるということです。私は、大学2年生の2月(試験の5カ月前)に学習を開始し、始めた日に専門教養・教職教養の過去問を解きました。結果として教職教養のみ点数が足りず、専門教養は合格点を超えていたので、教職教養のみ日々の空いている時間を使って学習を開始しました。参考書を購入し、まずは全体を1カ月で3周することを目的として、量をこなす学習を行い、次の1カ月では細かく内容を復習しながら勉強をする質をこなす学習をしました。その結果4月の時点で大体の範囲を網羅出来ていたため、4、5月を使い過去問を併用し苦手分野を潰し、とるべきところをとり切るようにしました。6月には過去問を解いて基本的に合格点を超えていたので、大丈夫だろうという確信を持っていました。

専門教養については、数学は大学入学共通テストと同じ範囲が広い分、少し難しい程度なので、しっかりと基礎知識がありアウトプットができていれば、そこまで大変ではないかと思います。2つのテストに総じて言えることとして、早めに自分がどの程度取れるかを把握しておくことが本当に大切です。楽しいことで溢れていて大学受験の記憶も薄れている大学生の今、過去問を解くのは億劫に感じるかもしれませんが、できるだけ早めから取り組むことをお勧めします。

### 3. 小論文について

小論文試験については、個人的な参考書の購入などはせず、本学の教職課程センターの教採対策のみで挑みました。書き方のシステム化を教えていただける説明と、毎回の丁寧な添削のおかげで小論文対策を完璧に行うことができました。私は半年かけてじっくりと対策し合計約15回小論文を提出・添削をしていただいたことで、自信をもって本番に挑むことができました。参考書などなくても正直教職課程センターの対策だけで十分なので、ぜひ皆さんも利用してみてください。

### 4. 面接試験について

面接試験についても小論文試験と同様に教職課程センターで説明を受けた上で何度か練習をさせていただきました。かなり緊張感をもって練習できるだけでなく、必要な知識をインプットできる場でもあるので、本当に大きな対策になったと思います。

加えて、私は面接試験がかなり得意なタイプなので、個人的意見にはなってしまっていますが、自分が思うポイントについても何点か述べてさせていただきます。第一

に、面接はあなたを発表する場ではなく、面接官と対話をする場だと私は考えています。授業などでパワポなどを使って発表する場とは異なり、その場その場での対話相手（面接官）とのコミュニケーションが本当に大切です。良いことを言わないと、自分の価値を示さないと、などと考えすぎるよりは、自分より年上の3人の方とお話ができる機会だ！くらいに思っている方が良いでしょう。実際面接をしてみると面接官の人は優しいことが多いので、あまり気負い過ぎず仲良くなる場とってください。その上で大切なこととして二つ目に、対話の中で“あなたの魅力をどう示すか”を考えることが大切です。どのように言いたいことに誘導するか、どうすればこの人良いなと思ってもらえるか、その戦略の部分はしっかりと練って挑んでください。私は出来るだけ1回1回の発言を短くした上で、相手に自分の言いたいことを質問するように誘導することを心がけていました。餌をまいて釣り上げるみたいな感覚です。面接官と仲良くなり、この人と働きたいという対話を創り上げることが本当に大切です。そのため、魅力的なエピソードとそれを上手く話すための戦略をしっかり準備して挑めば間違いなく受かると思います。

## 5. 最後に

教員採用試験は異常なくらい難しいかと言われればそうではないかもしれませんが、ただしっかり対策をしていなくても受かることができる試験ではないので、自分の力を過信し過ぎず、将来への展望をしっかりと持った上で着実な努力を積み重ねて欲しいと感じます。ここまでこの合格報告を読んでくれたあなたは、きっと教員という仕事に多少は興味があり、試験を受けることを考えていると思います。もしそうであれば、少しでも気持ちが上向きになっている今のうちに過去問を購入し、課題に取り組むとともに、教職課程センターを訪ねて、受験に向けての戦略を立ててください。この報告を読んでくれた方の試験が良い結果で終わることを心から願っています。頑張ってください！

---

## 教員採用試験にむけて

K.F. (理工学部応用情報工学科4年)

---

私は東京都の中高共通数学の教員採用試験に合格しました。この合格対談記が少しでも教員採用試験に挑む方の参考になれば幸いです。

### 1. 東京都教員採用試験について

東京都教員採用試験において、大学生が受験する方法として2つあります。1つ目が一般選考で、この試験方式は4年次にすべての試験を受験する一般的な方

式です。2つ目が3年時前倒し受験という方式で、3年次に筆記試験を受験し、4年次に小論文と面接を受験するというものです。3年次の筆記試験に落ちた場合は、4年次の一般選考を受けることができます。

### 2. 専門科目について

問題の難易度は、そこまで難しくはありません。また、出題傾向も過去問を解いていればなんとなくわかるので、その部分を重点的に勉強するといいと思います。問題構成は大問4問で、大問1が小問集合、大問2は空間図形、大問3は微分積分、関数についての問題、大問4は高校または中学における学習指導要領についての問題が出題されます。本番もかなり時間が足りないと思うので、時間配分が大切になると思います。

自分は大学受験の際に数学で受験したので、過去問を解くことしかしていません。間違えた問題は何回か解きなおしを行い、わからない部分は参考書等で調べました。

### 3. 一般教養・教職科目について

一般教養はありません。自分は間違えて少し勉強してしまっただけで、きちんと募集要項を確認してください。

教職教養は、約3か月かけて勉強しました。平日は、4～6時間、休日は、8～10時間くらい勉強しました。覚える量が多いので短期間で暗記するより、長期間かけて暗記していく方が負担も少ないと思います。参考書は1冊買ってそれを当日までに完璧に覚えるという勉強法を行いました。

問題の内容は、法律の名称に対して、合う内容を答えなさいや、心理実験を行った人とその結果などが聞かれます。参考書によっては、法律の条文すべてを重要にするわけにはいかず、重要な部分だけ赤字になっていますが、その前後の文言を覚えておいた方が良いでしょう。また、後半の問題は東京都の政策について聞かれるので、そこまできちんと把握することは難しいと思いますが、専門教養に自信がない人はそこも勉強しておくことで得点率が上がると思います。

### 4. 論文について

論文は教職課程センターの齋藤先生の指導を受けて対策しました。何回も書くことが一番重要だと思います。何回も書くことで問題に対して、どういう内容を書くか決まってきます。そうなってくれば本番は、出された問題に対して、自分が一番よく書ける内容を選んで書くだけです。論文に対して自信がない人はとにかく早い時期から論文を書いて、添削してもらうということを繰り返すのがいいと思います。また、東京都は知識を必要としませんが、現場での経験があるというと思います。

### 5. 個人面接・集団面接について

面接も齋藤先生が設定してくださる面接練習で対策

を行いました。はじめは、緊張したり、自分の考えがまとまらなかったりして返答が上手くできないと思いますが、回数を重ねるごとに自分の中で考えがまとまって、面接官とのラリーも増えてくるので、大丈夫です。

面接においては、自分をアピールする場所だと思うので、自分の強みを持つことが大事だと思います。他の受験生とは自分はこういう部分で優っている、や他の受験生はこういう体験をしたことがないと思うが自分はしたことがあるなど、差別化した部分をもって試験に臨むといいと思います。自分は、中学校の現場でスクールサポートスタッフを行っていたので、そのことを自分の強みとして面接に臨みました。

## 6. 最後に

結果が4年次の9月末ということで不安を感じる人もいますが、しっかり勉強をして対策をしていれば大丈夫です。会場には、教育学部出身の受験生もいますが、十分戦えます。なので、自分の努力に自信をもって本番は望んでください。応援しています!!頑張ってください。

---

## 教員採用試験に向けて

Y.O. (理工学部創生科学科4年生)

---

私は今年度、中学校数学で神奈川県教員採用試験に合格することができました。私の経験が教員を目指す方に少しでも力になれば幸いです

### 1. 教員採用試験の対策について

#### (1) 試験対策スタート

私が試験対策を始めたのは、大学3年の8月からでした。最初はまず過去問を解きました。しかし、全くといっていいほど解けずとても焦りを感じました。そこで夏休み中に基礎固めをすることにしました。大学受験の時に使った数学の問題集を、数Iから数IIIまで3周しました。それと同時に教職教養の勉強も始めました。参考書を使って、神奈川県の教員採用試験で特によく出る範囲を重点的に勉強しました。何かのサイトで合格した人は、600時間程度勉強していると見たので、私は800時間を目指して勉強しました。平日は4時間、休日は8時間を目標に勉強しました。結果的には800時間には届きませんでしたが、自分の満足できるくらい過去問も解けるようになりました。一般教養の勉強は、全ての科目を勉強することはほぼ不可能と考えました。そこで、私は社会と理科を中心に勉強しました。社会はサイトや教科書で勉強したり、年号をできるだけ全部覚えたりしました。理科は参考書やサイトを使いました。論文対策は11月から始めて、教職課程センターの齋藤先生に教わりながら週に1回

くらい書くようにしていました。

#### (2) 筆記試験直前期対策

直前では過去問をひらすら解いていました。過去問ばかり解いていたとおっしゃっていた先輩方もいましたが、私にはそれまで過去問を解くほどの知識がまだに身につけていなかったため、参考書などを中心に勉強していました。ただ、数学に関しては、基礎固めが終わった後は過去問ばかり解いていました。直前では今まで勉強した範囲の復習を行いました。本番の試験を受けて思いましたが、やはり過去問を解けるようになることが一番大切であると思います(特に数学は)。

#### (3) 面接試験直前期対策

神奈川県は模擬授業も試験に含まれています。1次試験が終わった後に、面接や模擬授業の準備および練習を行いました。教職課程センターの齋藤先生や教育実習先の先生方に見てもらいながら、面接や模擬授業の準備と練習を行いました。

## 2. 試験当日の対応

### (1) 1次試験

本番当日は少し緊張していました。しかし今まででそれなりに勉強してきたつもりだったので、自信はありました。専門科目の数学は、過去問と似たような問題が半分くらい出て、それ以外は正直あまり解けませんでした。結果的には、半分くらいの点数がとれて大丈夫でしたが、そのときはすごく不安でした。教職教養と一般教養も半分くらいは自信を持って答えることができ、それ以外は微妙だったので、点数的にも半分くらいでした。論文では今までとは少し違った問題だったので難しく感じましたが、それまで練習してきた、数多くのテンプレートを思い出し、その中から出された課題に合いそうな内容をイメージしながら書くことができました。

### (2) 2次試験

2次試験は約10回練習していたので、それなりに自信はありました。5人一組に分かれて行われました。模擬授業は練習してきた通りにやって、結果としては模擬授業が8割くらいで、一番よい結果でした。また面接では、いかに自分の言いたいことを言うために、面接官に質問させるかが大切だと思っています。回答は短く心がけていました。私はこれまで学生ボランティアやスクールサポートスタッフ、教育実習をやってきたので、それを武器に面接に挑みました。何回も練習したおかげで、自分の言いたいことをほとんど言うことができました。場面指導の質問は教職課程センターの齋藤先生からいただいたものを使って回答を覚えていました。そのおかげで、迷わず答えることができました。終わった後は「これで落ちたらどうやって

受かるんだよ」ってくらいにすごく自信がありました。やはり、教育現場での経験は大きなものだったと思います。

### 3. 教員採用試験を振り返って

結果的には合格することができて、これまで協力していただいた教職課程センターの齋藤先生や友達、先輩、家族には感謝しかありません。なによりよかったことは教育現場での経験があったことだったと思います。自分自身色々あって数ヶ月勉強する気が起きずに何もしない時期がありましたが、あることをきっかけにすごくモチベーションが上がりました。不安いっぱい、一時期は推薦に逃げてしまいたくなる時もありました。ですが、法政大学にいる皆さんは600時間を目標に勉強すれば1次試験はまず合格することができると思います。2次試験は話すのが得意な人は大丈夫かもしれませんが、私みたいに得意ではないと思っている人は、教育現場での経験を積むのが一番だと思います。頑張ってください！応援しています！そして同じ教員として働ける日を楽しみにしています！！